

●東京都町村議会議員講演会（東京都） 沖山 昇
令和7年5月7日 15時00分～17時00分

目的：議員の研修

演題「議員と住民の距離を縮めよう」～なり手不足から主権者教育まで～

講師 拓殖大学政経学部 河村和徳教授

成果

1. 地方議員に関する誤解

地方議員の定数を減らすべき」「地方議員の数を減らすと行財政改革に大きく貢献」「地方議員の議員報酬が多すぎる」「地方議員には年金がある」など、地方議員に関する誤解がある。

<誤解の内容とは>

- ① 「地方議員の定数を減らすべき」
 - ・住民の直接参加が難しいため代表を選んでおり、議会は住民の縮図である。
- ② 「地方議員の数を減らすと行財政改革に大きく貢献」
 - ・地方交付税の算定根拠となっているため、予算に影響がある。
- ③ 「地方議員の議員報酬が多すぎる」
 - ・都道府県や政令指定都市の地方議員報酬は「生活給」という位置付けであるが、町村には当てはまらない。
- ④ 「地方議員には年金がある」
 - ・議員年金は制度として廃止。町村議員のなり手不足の大きな要因の一つ。

2. 審議機能と代表機能

地方議会には、議論する場(常任委員会)と議決する場(本会議)の二つの性格がある。

- ・議論する場は、適切な会議体であるべき。
- ・議決する場は、住民の縮図であるべき。

3. 議員を巡る新しい変化

- ① 「デジタル化と執行部による住民参加」
 - ・執行部が議員を通さず直接住民とつながる。
- ② 「コミュニティの衰退とインターネットの普及」
 - ・地域の代表という側面が小さく、また世帯の中でも意見が割れる。
- ③ 「住民との距離を縮める」

説明会の見直し

- ・政策の単位で話を聞く場をつくる。

広報の見直し

- ・紙ベースだけに頼らず、取り組みを可視化する。

高齢者と若者との議会の距離

- ・コミュニケーションをアップデートする必要がある。

議会の実態を知ってもらう

- ・ゼミナールの実施など、議会のみえる化を含めた改革が必要。

④ 「重要な意思決定機関になるために」

個人のスキルアップ

- ・議員のリスキリング。

議会のレベルアップ

- ・多様な意見を聞く場、学びの場としての議会。
- ・議会事務局の機能強化(専門職員の雇用など)。

⑤ 「政治に参加する方法」

簡単な政治参加

- ・署名する、選挙で投票する。

団体をつくり、社会に働き掛ける

- ・陳情活動。

以上、講演の主な内容であったが、他に議長会の取り組みとして先進事例の紹介や主権者教育サイトの作成、富山県議会の取り組みとして高校への出前事業や広報の見直し例などの紹介。主権者教育の到達点として「ない物を考える力をつける」という視点を持つ必要がある。